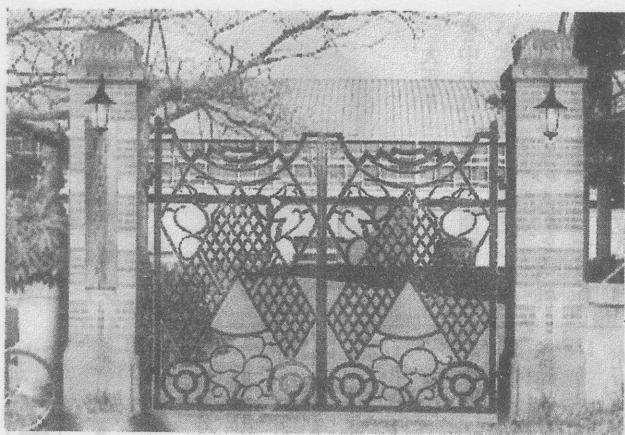




旧正門 門扉復元工事(案)予想図

会員の皆様にはご清祥にて新しい年を迎えられた事



同窓会長

戸谷

全克

(高一回卒)

「記念すべき八十周年を迎えて」

と心よりお慶び申し上げます。

母校も本年、大正十一年の開校以来、八十年と云う月日を重ね、その間、約二万九千名の有為な人材を各界各層に送り出して参りました事はご同慶の至りと存じます。

昨年、同窓会では学校並びにPTA・後援会と語らい、創立八十周年記念実行委員会を組織し、記念事業について種々検討

柏陵

発行

県立本庄高校同窓会

会長 戸谷全克

事務所 本庄市中央1-7-21

戸谷 八内

TEL0495(22)2008

を致しました。その結果、末広がりを表す八十周年に相応しい基本理念として、第一に過去(歴史)の成果を称え、第二に現在を見つめ、第三に未来を指向する各種の記念事業を採り上げる事に決定させて頂きました。

【第一の事業】

①八十周年記念誌の刊行。
②旧正門の復元と記念碑の建立。

③母校に関する資料の収集及び保管場所の確保。
(これらは主として同窓会が担当)

【第二の事業】

①同窓会名簿の発行。
(同窓会担当)
②八十周年式典の挙行。
(主としてPTA・後援会担当)

【第三の事業】

①情報化社会への対応
(主として学校側の担当)
以上、過去・現在・未来へ

対応する事業を行う事によって、母校の名譽を高め、PTAや在校生が母校に対する理解を深め、希望のある将来を確信出来るようになる事を願っております。

【各記念事業の解説】

①「八十周年記念誌の刊行」

a. 特徴ある内容

ア. 同期会・各地支部・部活の活動状況の記事
イ. 懐かしい本高新聞の抜粋

②昭和二十二年六月二十日発行の学校新聞創刊号より約五十年間に亘る記事・写真などの抜粋

③(1)「旧正門の復元」

a. 会報一号への伊藤校長の寄稿文「歴史と伝統ある本校にしては、どこことなく重みがない。正門を東に移したからだ。赤レンガの旧正門周辺は威風堂々たるものがある。この周辺は大切に保存していきたい」この指摘に則り復元を決める。

④伊藤校長は本校十八代、松山高出身で、後に同学校長になる。松山高では赤レンガの正門が取り壊されて現存しない。その事を大変残念がっていた。

b. 門扉もオールヌーボー様式の素晴らしいもの。

c. このデザインは九州でデザイン神様として記念碑が建っている母校旧職員河内 諒先生の作。

②(2)「記念碑の建立」

a. 柏塔の聳える旧本館の姿を彫り込む。

③「会員名簿の発行」

a. 「柏陵会員名簿」と愛称を付け、平成十三年八月二十日発行。頒価四千三百円。僅少の残部があります。母校へお金を添えてお申し込み下さい。

b. 特色

A4版変形、二段組。七桁の郵便番号採用。

全終身会員名掲載(十三年三月末迄)

以上事業内容の概略を説明させて頂きました。

然しながら、これらの諸事業を立派に成し遂げる為には募金目標の達成が何よりも肝要でございます。

就きましては、内外とも出費多端の折から、誠に恐縮に存じますが、同封させて頂いた「趣意書」をこ一読の上、趣旨を十分にお汲み取り頂き、御芳志を賜りたくここにお願い申し上げます。

尚、一口以上ご協力戴いた方には「記念誌」を無料贈呈させて頂きます。

《お詫び》

本高生徒会長(全・定)の文章と終身会費納入者及び特別寄付者並びに年会費納入者名が紙面の関係で割愛させて頂きましたことをお詫び申し上げます。

平成十四年度総会ご案内

一、日時 六月十六日(日) 午後三時

二、場所 埼玉グランドホテル本庄

三、次第

①午後三時

②午後四時三十分

③午後五時

通常総会

記念音楽会 琴演奏

下野戸(佐倉) 亜弓

(高三四回卒)(東京芸大卒)

懇親会(会費 五〇〇〇円)

柏陵消息

創立八十周年の年を迎え

学校長 菅谷 浩之（高十三回卒）



大正十一年、二本松の地を中心に、地域の期待を担い本校は創立されました。

爾来、多くの人材を内外に送り、今日に至っております。今年は、創立八十周年の記念の年となりました。現在、同窓会・PTA・学校では記念すべき年を祝うため、記念式典・記念事業を計画しております。

同窓会では、記念事業の一つとして、今でも敷地の南に残り、中学時代から昭和四十六年木造校舎本館が解体されるまで用いられた、レンガ造りの旧正門を、改修して遺そうと計画しております。旧制中学時代の正門は県内に存在せず、貴重なものになると思われすが、母校への限らない愛着のことからと存じます。



ところで、本校に着任し二年目が経とうとしていますが、この間、母校を訪ねる卒業生も多く、いずれの方も、母校の発展を念じております。

現在、学校教育は大きな転換期にあります。八十周年という記念すべき年、皆様が長年にわたって築いてきた本校を、さらに発展充実させるべく尽力しようとの覚悟です。

最後になりましたが、八十周年記念事業につきましては、皆様のご支援なしには実現いたしません。つきましては、一層のご支援ご協力をお願いいたします。皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

創立八十周年に

寄せて

PTA会長 芝崎 茂
(高十八回卒)



大正年間に旧制本庄中学として誕生した本校は、今年創立八十周年を迎え卒業生二万八千人を輩出している県北の伝統校です。

「質実剛健」をモットーとしていた頃の往時の風潮も運動部には若干は残っていた感もあり、その中で育ってきた先輩各氏も大分おられて、私たちもそんなカルチャーを心の片隅に持つておりました。昭和四十一年に卒業し既に三十数年、時代は大きく変貌し、教育方針も変わり高校生活もそれと共に変革してきています。昨今報道される高校生を含んだ数々の問題も個々の自覚と認識の欠如から発生した事が大半ですがやはり「らしさ」は必要です。高校生らしき、社会人らし

さ、いつの時代でもそれはついて回ります。八十周年を迎えるにあたって、諸先輩の築かれてきた「伝統の重さ、歴史の深さ」が語り継がれ伝承され形こそ変わっても本校の生徒の中に息衝き、心の糧として育んで戴ければ、そしてそれを「誇り」として持つて戴ければと思っております。

記念事業に向けて

PTA後援会長 植田 豊久



平成十三年度にPTA後援会に携わり、伝統ある本庄高校の創立八十周年記念事業に協力出来、又、その中で多くの同窓会会員の皆様と接する機会に恵まれて大変光栄に感じています。準備の為の会議は、本校の三階で行われる事が多いのですが、同窓会員の中には御高齢の方も多く、階段が辛そうに見えることもあ

りますが、学生の当時を語りはじめた時には表情も輝き、つい昨日のこのように語る姿を目にして、記念式典には是非大勢の卒業生が参加して語り合って頂きたいものと思っています。

近年の経済状況等から大規模な記念建造物等とは不似合いと思いますが、八十年という歴史を感じることに出来る記念事業が実行出来ますよう、戸谷委員長の下に微力ながら協力をしていきたいと思っております。

本庄中学の思い出



登 矢代
(本中7回卒)

私は本庄中学第七回の卒業生で、八十六歳になりました。松久小学校の出身であります。当時は六年生から本中に合格することはなかなか困難でありましたので、私たちの担任は五年生から入学のための準備教育を始めました。幸い受験した四人が全員合格できました。

その頃の本中は武蔵野の松林の末端にあり、講堂の奥などには野兎が出没したようでした。こうした環境では作業教育が最も大切なことでありました。私たちは学校の往復には常に自転車の後に蜜柑箱をつけ、往路に川に下りて、砂か砂利をつめて学校に行き、放課後はコンクリート作業で、卒業記念の七柏園を造りました。作業教育は全国的に名を挙げ、見学者も多かったようでした。

また勉強にも熱心で、朝礼台の前の黒板には国漢・英・数・社理などの問題が出され、私たちは自由にそれを解き、回答箱に入れると先生の回答が翌々日頃に返されました。

当時、私の学年は八十名程に減っていましたが、高等学校三・高等師範二・高等専数が合格しました。

大部分が中学で終了した中で勉強と勤労との両立を完成した本中の教育には深く感謝し、内藤校長・金子校長・鯨井教頭・長教頭・富田英夫先生など懐かし、深い敬意を表します。

(元浦高校長)

なつかし本高



関根 みよ
(本女4回卒
前職員)

新制本庄高校第一回卒業式は盛大に挙行され、最後に新校歌「連峯雲に…」を歌い終った時、突如「眺め遙るけき本庄のおとめ我等は…」のソプラノが起った。その歌声が終るやいなや「松は緑に八千草匂い児玉の原の歴史は長し…」、朗々高らかの男性大合唱！与えられた共学の興奮もさること乍ら今まで育まれた母校への愛着は若者の胸深く染み透っていたのだ。

私は町立本庄高女四回卒。

戦争末期昭和十九年以来十四年間、本高の国語科教師。

同窓生という名の絆



高橋 大介
(高39回卒)

私が本庄高等学校を卒業して十五年が経ちます。その間本庄を離れ、進学・就

息子は二人とも本高卒。本高も本庄の地もとてもなつかしい。教室では国語授業の充実を求めている悪戦苦闘。五十名余のH・Rは若者達との厳しいおつき合い。「おばさん」の余計なおせっかいと横向くのをむりやり引っぱって」ともし

び「を歌い、無記名でいいからと詩や文を書かせ、さすがにソフトボールの試合だけは応援団長にまわらせてもらった。

定年退職後既に二十二年、数えれば六校で勤めたが、本高の思い出は今も鮮明である。お世話になった校長先生方、諸先生方、そして今、戸谷同窓会長、幹事の方々に厚く御礼申し上げます。

本庄高等学校の益々の御発展を深くお祈り致します。

職・結婚と様々な事を経験し、昨年仕事の関係で、また本庄での生活が始まりました。そんな中で一番感じるのは、地元では本高卒業生というだけで、多くの先輩や後輩の皆さんと直ぐに親しくなれるという事です。そして、これからの毎

「柏陵」の刊行にご協力を



編集委員長 義典
ト部 (高1回卒)

平成十四年度は本庄高校創立八十周年に当たり、記念行事の一環として記念誌「柏陵」を発刊することが決定され、すでに各方面の方々に原稿執筆を依頼し、鋭意その編集に取り組み中ですが、その概要を紹介し、資金面での協力をお願い申し上げます。

題名は本校の校章・校旗・校歌等に取り入れられている柏葉をシンボルにする学舎を見つめ直し「柏陵」としました。

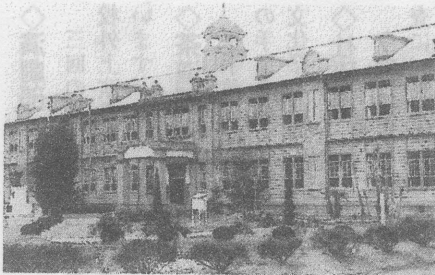
題字は金鑽大師の百田師恵和尚(旧中二十回卒)が増えています。そんな事を考えていると「同窓生

って良いものだなあ。」と感じます。本高を卒業して本高に良かったと心から感謝致します。ありがとうございました。

(埼玉グランドホテル本庄 総支配人)

表紙絵・扉絵は日本画家関口雄揮画伯(旧中十四回卒)にお願いし快諾を得られました。

記念誌の内容は、①各卒業年次毎の代表の方より同学年同窓会の活動状況や学校当時の思い出話、②部活動等の伝統と足跡を尋ねて創部当時の思い出やOBの活動ぶりなどの紹介、③各地域で活動している同窓会各支部の活動報告、④学校新聞の中から母校の特色と思われる記事の抜粋復刻紹介、⑤最近の母校の特記すべき事項、⑥在校生の意見、⑦高校制度の主な歩み、⑧その他個人投稿等を取りあげ、およそ四百ページ程度の記念誌にまとめ上げたいと考えています。



本庄中学校 本校前庭

現在(二〇〇一年)の進路を巡る状況

進路指導部
日比谷 繁

現役生の二〇〇一年春の進路状況は、大学進学者数では国公立大一〇名、私立大一四二名、合わせて一五二名で、過去三年間が一〇一、一〇一、一二一と推移してきたのと比べると大きく数を増やしている。その原因としては、受験人口が減少してきているため、大学側が早期に学生を確保しようとして推薦の定員枠を増やしていることや、一般入試も一部の難関校を除いて易化傾向にあるため、生徒の意識が「浪人は仕方ない」から「頑張れば現役合格できる」という方向へ変わってきていることが挙げられる。実際に、浪人などの進路未決定者数は八一名で、初めて二桁の数字になった。一方で、短大への進学者は四一名で、減少傾向が続いており、専門学校も七七名とほぼ横ばいである。就職者数は五名で数年前に比べると減ってきているが、原因の一つは、公務員が、不況で人気は高まっているのに採用人数は減少しているため、大変な倍率で難関となつていて、一次、二次試験を突破して採用に漕ぎ着けたのは一名だけであった。

現在は、すでに二〇〇二年度入試も推薦入試は終了し、二期終了時点で、進学・就職を合わせると一六三名が進路を決定している。これは三年生全生徒の約四五%に該当する。推薦入試の拡大とともに早期に進路が決定する傾向は今後も続くと思われるが、一般入試で受験する生徒にとって、クラスの約半分の進路が決まっている中で受験勉強に取り組んで行かなければならず、一般人試で受けるのが当たり前の時代にはなかったプレッシャーを今の受験生は感じている。(現在の入試傾向は、文系では司法試験の改革や国のロースクール構想などの影響で法学部の人気が高く、理系では不況が長引いて企業の採用が回復しないため、実学の工学部よりも基礎理論中心の理学部の方に人気が続いている。また、女子を中心に看護、医療、福祉系の人気は依然として高い。)

(これから、いよいよ一般入試を迎えるが、全員が実力を出し切って、ぜひ希望の進路を実現してほしい。)

母校近況

部活状況

体操部

県北で唯一の部活ですが、伝統を引き継いで頑張っています。

弓道部

埼玉県武道大会弓道部個人優勝・木村美友紀、女子団体3位。

テニス部男子

目指せ県大会団体戦ベスト8、個人戦ベスト16！

軟式テニス部

上位入賞を目指して日々練習に取り組んでいます。

スキー部

最後までチャレンジ！！

陸上競技部

ネバー・ギブ・アップを念頭におき、どんな厳しい練習でも乗りこえている。

男子バスケット部

男子バスケット部は部員11人で楽しく練習に取り組んでいます。

女子バスケット部

県大会ベスト8、県北大会は常に上位の成績を残しています。

硬式テニス部女子

新人戦北部地区大会、単・複1位。県大会、複ベスト16。

バレーボール部男子

学校総体県大会出場。インターハイ予選県大会出場。

バレーボール部女子

心をつなげ“を合言葉に、県大会を目指し日々練習中！

剣道部

男子新人戦県大会ベスト32。女子郡市大会個人1位。鍛錬

柔道部

関東ジュニア大会出場。「克己復礼」の精神で稽古に励む。

ソフトボール部

熱球青春、快音の手応え、快汗スポーツを体験したい。

水泳部

現在、生徒会長・副会長・書記が水泳部員。両立が目標！！

サッカー部

全国大会出場を目指し、日々厳しい練習をしています。

ワンダーフォーゲル部

部員も増え、夏山から冬山まで、楽しく活動しています。

卓球部

一年生男子部員が熱心に練習していて活躍が期待されます。

野球部

柏の操の精神を胸に部員一丸となって日々努力しています。

地学部

鉱物、化石、天体を交えた合宿も復活し、活動活発です。

新聞部

学校新聞を年四回発行予定。一年生の部長を中心に健闘中。

図書部

柏樹祭で万葉集を活用している人を紹介。今年は別のテーマで展示予定。

放送部

NHK放送コンクール朗読・アナウンス部門県大会出場。

化学部

現在部員14名。それぞれのテーマに沿って、実験中。

演劇部

三回の校内上演と二回の校外上演を中心に活動しています。

茶道部

平手前、棚、大板、長板の手前を練習。発表の場は文化祭と二回の定例お茶会。

社研部

今では稀少の「鍔絵」調査に、東奔西走いたしました。

吹奏楽部

定演、コンクールを含め活発に活動。演奏会に多数参加。

生物部

生物の採集と飼育・栽培。微生物の培養と実験。

写真部

最近ではデジカメ中心に写真の世界を広げています。銀塩と変わらない画質が得られます。

美術部

油絵を中心に制作活動を行い、文化祭での校内発表や年二回の校外展をしています。

書道部

毎年六月には校外展を本庄市民ギャラリーで行っています。是非お越しください。

英語部

楽しみながら英語に親しむ事を目標に、英語力向上を目指す。

考古学部

考古学を中心とする歴史全体について研究を行う部活動です。

物理部

パソコンを使ってプログラムの研究を中心に活動しています。

本部・支部役員

会長	戸谷 全克	高1
副会長	立川 大作	中9
副会長	高木 敏子	女8
副会長	清水 實	中19
副会長	吉田 建治	高2
副会長	塚越 寿衛	高2
副会長	竹並栄一郎	併中2
副会長	戸谷洋一郎	高14
副会長	教頭 清水 進	
副会長	教頭 山辺樹久生	
会計	内野ヨシエ	女16
会計	清水 正一	高6
監事	江原 清吉	高4
監事	竹内恵美子	高6
顧問	岡 祐孝	中9
顧問	校長 菅谷浩之	高13
宮本町	卜部 義典	高1
泉町	竹並栄一郎	併中2
宮部	彰 高	14

上町	境野 登	高2
照若町	岩本 英人	中20
七軒町	町田 一徳	高5
仲町	飯塚 能成	高25
本町	矢代 和正	高6
南本町	村田敬次郎	中22
台町	松本 敬一	定1
末広町	野枝 直治	高5
諏訪町	山本 重司	中22
朝日町	内藤 明	高3
藤田	宮崎 興憲	高4
仁手	福島 好正	高3
旭	亀田 本二	高4
北泉	塩原 暁	高5
今井	清水 奨	高4
児玉	吉田 建治	高2
美里	野口 重信	高23
神川	金井 久直	中22
神泉	秋山 欣彦	高28
上里神保原	森村 信行	高14
上里賀美	小野 英彦	高14
上里七本木	斎藤 勝次	高14
上里長幡	小柳 喜政	高10
岡部	田嶋 義介	高5
寄居	松本 恭二	高2
深谷	清水 實	中19
熊谷	栗原 健昇	高13
県庁東南	小池 久	高10
伊勢崎	吉澤 唯志	高11
新町	高嶋 重皓	高6
東京	富田 三郎	中4
本庄市役所	戸谷洋一郎	高14
エーザイ	茂木 秀夫	高13
沖電気	村岡 徳英	高15
児玉郡市教職員		
宮部	彰 高	14